学 校 だ よ り　　10月号

文京区立第一中学校　令和５年１０月２０日(金)

唱　う（うたう）

校長　田島　佳子

「翼をください」
今　私の願いごとが叶うならば　翼がほしい
この背中に鳥のように白い翼つけてください
この大空に翼を広げ飛んで行きたいよ
悲しみのない自由な空へ
翼はためかせ行きたい

昭和の５０年代はじめの頃中学生だった私は、当時、流行っていたポップな曲として、「翼をください」という曲を音楽の時間に習って発表したのを覚えています。それまでは、ユニゾンで歌うことが多かったのですが、パートごとに分かれて、他のパートにつられないように歌うのが難しかった。そして何より３つのパートで奏でるハーモニーができた時のふわっと体が浮いて意識が宙に飛んでいく感覚をいまでも思い出します。

教師になってから、今日まで、毎年合唱コンクールがあります。中には３月に合唱コンクールを行っていた学校もありました。ほとんどの学校では合唱コンクールは２学期に行われていました。私が文京区立第一中学校に赴任した年は、令和２年でしたのでコロナが猛威を振るっていました。前代未聞のことが次々と起こりました。６月に入ってから校庭で入学式をしました。運動会は感染状況から実施を諦めました。合唱コンクールもどうなるのかわからない状況でした。体育館での実施は厳しいと判断せざるを得ない状況でした。やれるかどうかわからない中で、やれると信じて練習していた生徒の思いが届いたのか、シビックセンターを借りることができるようになり、なんとか実施のめどが立ちました。とは言っても、合唱の練習が音楽の時間で十分できません。さらにマスクをしたままのクラス練習です。当日、いくら音響のよいホールとはいえ、声が聞こえるのか、正直不安でした。いろいろな行事が延期や中止になる中で、なんとか学習発表会だけは、やりたいと必死でした。午前中はシビックホールでの合唱コンクール。午後は学校に戻って、部活動の発表を行いました。合唱コンクール本番はマスクをとって、舞台に立ちました。当時の１年１組の声がホールに響いた瞬間、涙が頬を伝いました。きれいなハーモニーが聞こえたのです。特に自由曲の「花は咲く」は圧巻でした。１年生なのに、練習時間が圧倒的に少なかったのに、マスクを着用しての練習しかできなかったのに、言い訳なんて必要のない、澄んだ美しいハーモニーが響いたのです。どのクラスも素晴らしい合唱でした。１学期はコロナで合唱の練習ができなかったにもかかわらず、夏休み明けからやれることを信じて練習した成果がでたのです。唱えることへの喜びが声になっていました。

先輩たちが必死でつないだ合唱コンクール

今年の主役は、あなたです。

八ヶ岳移動教室　１年　９月 11 日～13 日

職場体験　２年　９月 11 日～13 日

合唱コンクール　練習風景　全学年

ものづくり体験　２年 10 月６日　13 日

１０月１６日（月）から合唱コンクールに向けた放課後の練習が始まりました。
どの学年も自主的に練習をしています。

課題曲　１年　カリブ夢の旅　２年　時の旅人
　　３年　大地讃頌

自 由 曲　1-1　涙をこえて　1-2　大切なもの
　　2-1　手紙　2-2　君の隣にいたいから
　　3-1　言葉にすれば　3-2　聞こえる

本番は１０月２８日（土）